

第九十九回フォト句優秀作品（元年10月8日）





彼岸から

呼ばれた気がし

後ずさる(進一郎)



鞍馬山奥の院まで

蝉しぐれ(昌康)



## マゴ手元ジジババ先を見る世かな (隆)

寸評：

1) 雨上がり耳を澄ませば山の声 三 春

雨があがりようやく霧が晴れて山頂が見えてきた。一瞬の静寂。

風が吹きだして山の声が聞こえてきたように感じた。単調な画像が

山の声の一句で詩情を醸し出した。

2) ターナーの雲迫りくる初嵐 安藤 晃二

この雲を見てイギリスの画家ターナーを想定したセンスの良さが光る。

原句（ターナーの絵心運び上陸す）では何を言っているのか判らなかつ

たが、句を修正して立派な作品に仕上がった。

3) **彼岸**から呼ばれた気がし後ずさる 長尾 進一郎

対岸では大勢が「おいでおいで」をしているが、本人はまだ三途の川を渡る気がせず思わず後ずさってしまう。**彼岸花**を題材にした面白い構図と句造りだ。フォト句ならではの作品。

4) **鞍馬山**奥の院まで蝉しぐれ 松田 昌康

画面では先ず陰影のある走り根の佇まいと構図に拍手。句は上5の**鞍馬山**という歴史的な地名で読み手に一定の先入観を抱かせ、中7で奥山の風情を感じさせ下5の**蝉しぐれ**という季語で締めた手法は見事と言えよう。

5) マゴ手元ジジババ先を見る世かな 池田 隆

スマホを見ているお嬢さんと遠方を指差している老人？の姿を巧みに捉えたスナップ画像をそのまま説明した軽妙な作品だ。



付け句：今月は池田さんの出題。江戸川河口の砂州での風景です。

1) カモメから見れば人間**同じ顔** 中村 晃也

一概にカモメの群れといっても、我々からみれば個々を識別できないが、それぞれの個体にはちゃんとお相手がいるのだ。反対にカモメから見れば、人間はどれも同じに見えるに違いない。

2) **ヒッチコック**の出番指示まで休憩中 松田 昌康

「鳥」といえば無数の鳥が人間を襲うヒッチコックの恐怖映画を思い出す。あの映画に出演した鳥たちは出番指示があるまで砂州で待機していたのだろうか？

3) **着ぐるみ**で身元かくして抗議デモ 三 春

全員マスクで参加をしたのは**香港のデモ**。東京湾の砂州も消滅近いのでカモメの着ぐるみをまとして抗議の集会を開催中というところ。

4) 北の島鳥で賑わう**温暖化** 長尾 進一郎

寒くなると北の島から鳥がいなくなる？ 近年の温暖化の影響で南方へ帰るはずの鳥が居座っていつまでも賑わっているという不思議な現象。

5) 間違えずに女房探す**自信なし** 中村 晃也

最近女房の顔をじっくり観察したこともないし、これだけの数の中から特定の一個人を探すのは無理だ。間違ったふりをして手近の若いご婦人で間に合やすことで佳しとすべきだろう。 以 上